

キンギョソウ スナップショット・シリーズ

学名: *Antirrhinum majus*
種子粒数の目安: 6,350 粒/グラム

発芽とプラグ生産ステージ

ステージ 1 - 幼根発生までの期間
水はけがよく、ピート主体の新しい培地を使用。培地の pH は 5.5 から 5.8、また EC は 0.75mmhos/cm(1:2)を維持する
発芽温度: 18 から 20°C
発芽期間: 4 から 6 日
培地の水分: 中庸/標準とする
発芽時の光: 不要
播種時の覆土: パーミキュライトで軽くする

ステージ 2 - 軸の発生と子葉展開

育苗期間: 7 から 14 日
培地温度: 18 から 21°C
培地の水分: 幼根発生後は、培地の水分レベルを低減する。水やりの前には、培地がやや乾くような状態にする。日中は早めにかん水を行って、夕方までに葉水が乾くことが望ましい
光条件: 5,000 から 16,000 ルクス (450 から 1,500f.c.)
肥料管理: 子葉が完全に展開した時点で、14-0-14 の肥料、あるいは硝酸カルシウム/カリウムの肥料を 50 から 75ppm(N)の濃度で週 1 回与える
培地の pH: 5.5 から 5.8
培地の EC: 0.75 mmhos/cm 以下

ステージ 3 - 本葉の生長と発達

育苗期間: 14 日
培地温度: 17 から 18°C
培地の水分: 根の発育を促し、新芽の発生を抑制させるため、前ステージ同様、かん水の前には培地が乾くような状態にする。ただし苗を枯らせないように注意する
光条件: 11,000 から 27,000 ルクス (1,000 から 2,500f.c.)
肥料管理: 20-10-20 と 14-0-14 の肥料、あるいは硝酸カルシウム/カリウムの肥料を交互に 100 から 150ppm(N)の濃度でかん水 2,3 回に 1 度与える。このステージで、1,2 回補完的にマグネシウム(硫酸マグネシウムあるいは硝酸マグネシウムの 0.1%水溶液)を与える。硫酸マグネシウムと硝酸カルシウムを同時に使うと沈殿物が形成されるので、混ぜないように注意する
培地の pH: 5.5 から 5.8
培地の EC: 1.0 mmhos/cm 以下
矮化剤: 可能な限り DIF(昼夜の温度差を利用した生長制御)を用いる。矮化剤を用いる場合は、播種後 3,4 週で A レストの散布によって丈の調節への効果が報告されている

ステージ 4 - 苗の出荷あるいは移植が可能な状態まで

育苗期間: 7 日
培地温度: 16 から 19°C
培地の水分: 前ステージ同様、かん水の前には培地が乾くようにする。ただし苗を枯らせないように注意する
光条件: 11,000 から 27,000 ルクス (1,000 から 2,500f.c.)
肥料管理: 14-0-14 の肥料、あるいは硝酸カルシウム/カリウムの肥料を 100 から 150ppm(N)の濃度で必要に応じて与える。ステージ 4 ではアンモニア態肥料の使用は避ける
培地の pH: 5.5 から 5.8
培地の EC: 0.75 mmhos/cm 以下

鉢上げから出荷まで

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の初期養分は中庸に、また pH は 5.5 から 6.2 とする

生育温度: 昼間 13 から 22°C、夜間 10 から 13°C が生育適温。夜温が 13°Cを下回ると丈の生長に影響があるので、過度な低温条件は避ける。キンギョソウの生産に最も適しているのは、秋から早春までの低温による維持管理が可能な期間である
培地の水分: かん水の前には培地がやや乾くような状態で管理する。ただし苗を枯らせないように注意する
光条件: 推奨された温度条件が保たれている場合は、できる限り高く維持する
肥料管理: 15-0-15の、また 20-10-20 の肥料を交互にかん水と交替で 150ppm(N)の濃度で与える。その後のかん水で洗い流すようにする
培地の pH: 5.5 から 6.2
培地の EC: 1.0 mmhos/cm(2:1)
ハウスの条件を確認し、株(苗)の置かれている場所の通気性を良くするように心掛ける

草丈の生長制御について:

- 苗の根がコンテナの内壁に到達してからは、かん水の前には培地をやや乾かすような管理を行う
- とくにリン酸とアンモニア態窒素の使用は控えることが望ましい
- キンギョソウは DIF(昼夜の温度差を利用した生長制御)への反応がよい植物であり、ネガティブ DIF(負の DIF:明るい時間の温度が夜間よりも低い条件を設定する)によって徒長を抑えることが可能である
- 上記に提示された低温、高光条件で管理された場合は、矮化剤は不要である。キンギョソウの丈の抑制については、B ナインやボンザイ、スマジックなどの矮化剤による効果が確認されているが、一方で開花の遅れや開花期のばらつきなどの可能性がある

平均的な生産期間

播種から移植まで: 5 から 6 週(288 穴)
移植から出荷適期まで: 4 から 6 週

病例等

害虫: スリップス、アブラムシなど

病気: ベト病、ボトリティス、ウドンコ病

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。